

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標6\_地球環境・生活環境・上下水道】

施策 6-3\_循環型社会の実現

基本計画		事業番号	細事業名称
6-03-01	ごみの発生抑制と資源循環の推進	04091_01	ごみ適正処理啓発事業
6-03-01	ごみの発生抑制と資源循環の推進	04092_02	資源ごみ集団回収奨励事業
6-03-01	ごみの発生抑制と資源循環の推進	04104_07	生ごみ処理容器等設置補助金
6-03-01	ごみの発生抑制と資源循環の推進	04104_10	生ごみ減量推進事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04049_01	清掃センター定期点検整備工事
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04087_01	水路改修事業等補助金
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04170_02	環境美化啓発事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04170_03	環境美化推進協議会事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04208_01	ふれあい収集事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04233_01	不法投棄対策事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04246_01	清掃センター焼却灰等処理事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04248_01	地域環境整備事業補助金
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04258_01	ごみステーション適正管理推進事業
6-03-02	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	04258_02	ごみステーション適正管理推進補助金
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04049_03	清掃センター改修事業
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04057_01	衛生センター施設整備事業
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04211_01	菊本最終処分場施設整備事業
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04211_02	菊本最終処分場長寿命化事業
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04250_01	廃棄物処理施設解体事業
6-03-03	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	04252_01	汚水共同処理事業

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	04091_01		
事業名(行目名称)		ごみ適正処理啓発費	細事業名	ごみ適正処理啓発事業				
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	ごみの発生抑制と資源循環の推進	担当課	廃棄物対策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内全世帯		数値	57,839世帯			
	手段(どうやって)	ごみ収集カレンダー、ごみ分別辞典を作成・配布をはじめ、様々な手法で正しいごみの分別方法を積極的に啓発する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民のごみ分別・適正処理に対する理解を深め、正しいごみ分別の浸透を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,160	1,241	1,241	1,172	○需用費・消耗品費 44千円 ラミネートフィルム2,000円×20箱×1.1=44,000円 ○需用費・印刷製本費 分別啓発シール代 108,900円 ごみ分別大辞典作成 65円×6,000冊×1.1=429,000円 ○委託料 659千円 ごみ収集カレンダー作成業務委託料499千円 点訳等カレンダー作成委託料 160千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	1,160	1,241	1,241	1,172			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
ごみ啓発シール貼付枚数			目標値	21000	20000	19000	19000	18000
			実績	20140	18562	8094	15155	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや低い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
ごみの出し方の啓発は、ごみ収集カレンダーの作成・配布やごみ分別大辞典、市政だよりなどで行っているが、3Rに関して更なる啓発・広報を充実させる必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
次年度については、自己搬入ごみの有料化の検討とともに事業の拡大を早急に検討し実施する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
ごみカレンダー及びごみ分別大辞典の流通、新居浜市公式lineアプリでの分別検索機能により、新居浜市のごみ10種分別への理解が徐々に進んでいる。令和4年10月よりごみの有料化に伴い、ごみの不法投棄及びごみSTへの不適正排出が増加することが懸念されるので、LINE、Twitter等のSNSを駆使した正しい分別方法の啓発や3R取組店舗(資源ごみ回収店舗やリサイクルショップ等)の紹介に取り組んでいく。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04092_02			
事業名(行目名称)		資源ごみ集団回収推進費	細事業名	資源ごみ集団回収奨励事業				
総合 計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	ごみの発生抑制と資源循環の推進	担当課	廃棄物対策課				
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	自治会・学校・PTA等の市民団体		数値	400団体			
	手 段 (どうやって)	自治会・PTA等の市民団体・各種団体に対して、資源ごみ集団回収事業の参加を呼びかけ、回収に対する奨励金を交付するとともに、市民に対しても本事業への協力を啓発する。						
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	市民自らによる資源ごみの回収により、ごみの再資源化を促進するとともに、資源の大切さについての市民意識の高揚を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		5,974	7,153	7,153	5,633	報償費 6994千円 消耗品費 5千円 印刷製本費 54千円 通信運搬費 100千円		
財 源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	7,153	7,153	5,633			
	一般財源	5,974	0	0	0			
IV 指 標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
資源ごみ集団回収量(t)			目標値	1500	1500	750	1500	1300
			実績	1324	1176	548	1112	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
新聞等紙媒体購読の減少や、新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を縮小している団体がある。回収量が減少しているが、感染症が落ち着いてきていることから、今後は回復していくとみている。また既登録団体のうち解散した団体があり、新規登録団体の確保も必要になっている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
登録団体数は今年度(178)であり、昨年度(174)より増えており、活動の原資となることもあり、奨励金は環境を意識する団体が活動を指向するきっかけとなっており、ごみの減量を考えると、制度の意義は失われていないことから、次年度も現状維持で継続する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
登録団体数は今年度(171)であり、昨年度(178)より減少したが、活動の原資となることもあり、奨励金は環境を意識する団体が活動を指向するきっかけにもなっている。また「ごみの減量」の観点からも、制度の意義は失われていない。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	04104_07	
事業名(行目名称)		ごみ減量化推進費	細事業名	生ごみ処理容器等設置補助金			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	ごみの発生抑制と資源循環の推進	担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	生ごみ処理容器等を設置する世帯		数値	500世帯		
	手段(どうやって)	生ごみ処理容器等の設置に対する購入費用を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	家庭から可燃ごみとして排出される生ごみの減量を図り、ごみの減量・再資源化に対する意識を高める。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		433	434	434	433		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	コンポスト 3,000円×40基=120,000円 密閉式処理容器 1,400円×10基=14,000円 電気式処理機 20,000円×15基=300,000円	
	地方債		0	0			
	その他	433	434	434	433		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
一人一日あたり燃やすごみ収集量			目標値	402	402	402	450
			実績	464	464	482	464
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>感染症対策で在宅時間が増え、家で生ごみをたい肥化しようとする層が増えたためか、申請が集中し、半年を待たず、補助枠が埋まってしまった。成果指標実績が悪化しているのは、政策の効果以上に、在宅時間の増加に比例し、燃やすごみが増加した結果であると判断している。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>今年度は早々に補助枠が埋まってしまったが、同じく、短期間とはいえ影響があった元年度は補助枠が余っており、傾向が読みづらいが、可燃ごみの多くを占める生ごみの減量に対する取組としての意義は変わらずあることから、補助枠を増やすことも検討する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
<p>令和元年度は補助枠が残ったが、令和3年度は早々に補助枠が埋まった。このことから、可燃ごみの多くを占める生ごみの減量に対する取組としての意義はあると考えられる。今後、事業の拡大も視野に入れ対応を検討する。</p>							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	04104_10		
事業名(行目名称)		ごみ減量化推進費	細事業名	生ごみ減量推進事業				
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	ごみの発生抑制と資源循環の推進	担当課	廃棄物対策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	燃やすごみを排出する市民		数値	57,000世帯			
	手段(どうやって)	生ごみたい肥化講習会の開催とたい肥化資材の販売を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	より多くの市民による生ごみの減量を図る。また、生ごみをたい肥化することでリサイクルへの意識向上を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,259	1,122	1,122	1,001			
財源	県・国支出金	0	0	0	0	生ごみたい肥化等委託料 1,001千円 パンフレット等印刷製本費 121千円		
	地方債		0	0				
	その他	1,259	1,122	1,122	1,001			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
一人一日あたり燃やすごみ収集量			目標値	402	402	402	402	450
			実績	464	464	482	464	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルスの影響により延期が重なり、講習会参加者数は現時点で少なくなっているが、既存のコンポスト利用者が活動を継続していることの証左として、コンポスト基材の販売数は昨年度と同程度で推移しており、底堅く生ごみの減量に取り組んでいる利用者があることを示している。その上で、感染症が落ち着いてきていることから、新たに始める据え置き型コンポスト講習会と合わせ、講習会参加者数が今後回復し、新たに生ごみ減量に取り組む層を発掘できる見込みとなっている。</p> <p>成果指標実績が悪化しているのは、政策の効果以上に、在宅時間の増加に比例し、燃やすごみが増加した結果であると判断している。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
今年度新たに始める据え置き型コンポスト講習会と、既存の講習会を軸に新たな利用者層を発掘し、粘り強く生ごみの減量に取り組んでいく。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>新型コロナウイルスの影響により講習会をあまり開催できなかった。コンポスト基材の販売数も昨年度より若干減少したが、既存のコンポスト利用者が活動を継続し、生ごみの減量に取り組んでいることがうかがえる。今後も据え置き型コンポスト講習会と合わせ、講習会参加者数が回復し、新たに生ごみ減量に取り組む参加者が見込まれる。</p>								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04049_01			
事業名(行目名称)		清掃センター施設整備事業	細事業名	清掃センター定期点検整備工事				
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	環境施設課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	ごみ搬出者及び施設直接搬入者(市民・事業者)		数値	118,521人			
	手段(どうやって)	各設備機器の定期点検整備工事、補修工事及び各種検査(法定・自主)を実施する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	日常の適正な運転管理と毎年、定期点検整備工事等を実施することにより、清掃センターの機能維持を図り、安定的に適正なごみ処理を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		316,199	293,031	293,031	289,593	焼却施設及び粗大ごみ処理施設定期点検整備工事 265,636千円 リサイクル推進施設定期点検整備工事 15,400円 建築・建築設備整備工事 11,995千円		
財源	県・国支出金	2,486	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	42,743	32,340	32,340	41,566			
	一般財源	270,970	260,691	260,691	248,027			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
点検設備数			目標値	21	20	20	20	20
			実績	17	19	0	18	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
計画的に整備できているが、想定外の機器不具合が増加しており、計画外の整備が懸案事項となっている。清掃センターは早急な機器の整備が不可欠であり、運転委託業者と連携を取りながら、最新の設備状況を把握し、継続的なごみ処理運営ができるよう施設を健全に保つ。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
プラント設備の保全計画及び各設備状況を鑑み、優先順位をつけ安定的なごみ処理ができるよう予算の確保に努めていく。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
清掃センターの施設保全是、予算の範囲内で優先順位をつけ整備を行っているが、建設されてから19年目をむかえ、突発的な不具合の件数が増加しており、整備手法に苦慮している。また、年々の労務費及び材料の高騰に加え、部品納期の長期化が進んでおり、整備計画どおりに対応が困難な状況になりつつあるため、工事手法の再検討及び、早期発注を行い、ごみ処理運営を継続的にしていく。								

### 令和3年度事務事業評価表

<b>I 基礎情報</b>			事後評価	2021	04087_01	
事業名(行目名称)		し尿処理施設環境整備事業	細事業名	水路改修事業等補助金		
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現		
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	環境施設課		
<b>II 事務事業の実施概要</b>						
事務事業内容	対象(誰・何を)	し尿汲み取り世帯および浄化槽設置世帯の市民	数値	48,466人		
	手段(どうやって)	阿島土地改良区へ水路補修工事費等の補助をする。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	阿島土地改良区井戸から取水を円滑に行い、上水道と比較すれば安価に希釈できる。				
<b>III 投入費用</b>						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		4,100	4,100	4,100	4,100	
財源	県・国支出金	0	0	0	0	阿島土地改良区水路改修事業補助金 3,000,000円 阿島土地改良区水路維持管理補助金 1,100,000円
	地方債		0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	4,100	4,100	4,100	4,100	
<b>IV 指標</b>						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
改修箇所数		目標値	2	1	2	2
		実績	2	1	0	2
<b>V 事中評価</b>						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			高い
現在特に課題は無し						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
協定書が令和4年3月に終了するが、令和4年度において残渣処理及び処理槽内の清掃があることから、令和3年度中に協定書の再締結をし、取水を継続したい。(但し、取水期間は協議により決定となるが締結は12月となる予定)						
<b>VI 事後評価</b>						
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当		
施設の安定稼働のため、処理に必要な水量を確保することが出来た。(協定書 令和4年度末まで延長)						

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	04170_02		
事業名(行目名称)		まち美化推進費		細事業名	環境美化啓発事業			
総合 計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道		施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立		担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	市内に土地を所有している方			数値	20,205人(推計)		
	手 段 (どうやって)	環境美化推進員の委嘱、新居浜市環境美化推進協議会会員と協力した幹線道路の清掃活動を行うまち美化キャンペーンの実施、啓発資料・啓発看板の作成・配布、パトロールの実施、空き地の適正管理や犬のふんの放置禁止が守られていない市民への指導。						
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	市民の自発的な環境活動を促すとともに、市民に対する環境美化意識の醸成を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		261	264	264	240	○需用費・消耗品費 202千円 環境美化啓発看板等 ○役務費・通信運搬費 62千円 環境美化推進員連絡用		
財 源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	261	264	264	240			
IV 指 標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
まち美化相談件数の義務履行率			目標値	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85
			実績	0.87	0.857	0.81	0.76	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
空き地の適正管理の指導については、土地の所有者が死亡し相続人がいないなど対応に苦慮する事案や高齢化による耕作放棄地の増加で指導依頼件数が増えてきており、農業委員会や資産税課との連携が必要である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
市民による美化活動を推進するため、次年度については今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
まち美化条例による空き地の適正管理については、目標値を下回る履行率となったが、今後も引き続き、土地公開台帳の確認後に手紙等による指導を重ねていく。特に、市外の所有者については、管理頻度を増やすよう指導する。								



## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04170_03		
事業名(行目名称)		まち美化推進費	細事業名	環境美化推進協議会事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民一斉清掃に参加する市内の、自治会、団体・事業所、及び市職員		数値	69,271人(推計)		
	手段(どうやって)	環境美化推進協議会による環境美化活動(市民一斉清掃の実施、市内の小中学生を対象とした環境美化推進運動作品を募集、表彰、展示など)を支援する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民の自発的な環境活動を促すとともに、市民に対する環境美化意識の醸成を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		950	861	861	352	○時間外勤務手当 120千円 ○環境美化推進協議会負担金 741千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		950	861	861	352		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
市民一斉清掃参加者数		目標値	18000	18000	18000	18000	16000
		実績	17000	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためにやむなく市民一斉清掃を中止した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
次年度については、国や県の動向や他市の状況等を十分に把握して、慎重に市民一斉清掃の実施を検討する。環境美化推進運動作品展は引き続き実施する。よって次年度については、今年度とほぼ同様の予算規模にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一斉清掃は中止となった。次年度においては、国や県、他市の動向を見ながら、実施の要否を検討していく。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04208_01		
事業名(行目名称)		家庭ごみふれあい収集事業費	細事業名	ふれあい収集事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	ごみ出し困難世帯(家庭ごみ)		数値	5,666世帯(推計)		
	手段(どうやって)	家庭ごみをごみステーションまで持ち出すことが困難な高齢者、障がい者の独居世帯等に対し、委託により週1回の戸別収集を行う。また、ごみの排出がない場合にも、声かけによる安否確認を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	ごみ排出が困難な高齢者、障がい者の独居世帯等の衛生的な生活環境の維持を図るとともに、日常生活を支援する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		15,652	17,243	17,243	16,490	ふれあい収集業務委託料19,084千円(562円×653件×2週)	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	15,652	17,243	17,243	16,490		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
収集件数		目標値	666	681	694	784	907
		実績	683	717	731	820	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
高齢化社会が進むなか、今後も利用者の増加が見込まれることから、毎年の予算増が必要である。より多くのニーズに対応していくことが求められる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
平成21年度から直接支援型で高齢者や障がい者に対し、週1回の戸別収集及び声かけによる安否確認を行い、安定的な収集運搬業務とともに日常生活の支援を行っている。高齢者のごみ出し支援は、全国的に大きな課題となっている。高齢化社会が進むなかで、その必要性も高くなってきており、環境省によるガイドラインも作成された。今後も利用者の増加が見込まれ、社会的要請が高いと考えられることから継続していく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
高齢者等のごみ出し支援が全国的に大きな課題となっており、環境省によるガイドラインの作成や全国的に同事業に取り組む市が増えてきている。本市は先進的にごみ出しが困難な世帯に対し、週1回の戸別収集及び安否確認の声かけを行い、安定的な収集運搬業務とともに、日常生活の支援もあわせて行っている。今後も高齢化が進むことが明らかであり、社会的要請が高いと考えられることから継続していく必要がある。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04233_01		
事業名(行目名称)		不法投棄対策事業費	細事業名	不法投棄対策事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民		数値	117,439人		
	手段(どうやって)	監視カメラの設置・管理、広報、看板設置による啓発、不法投棄パトロール、不法投棄ごみの撤去。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	不法投棄ごみを未然に防ぎ地域の環境美化を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		438	532	532	309	○需用費・消耗品費 45千円 警告看板代、杭木等 ○施設修繕料 165千円 監視カメラ部品交換 ○火災保険料 1千円 不法投棄監視・抑止カメラ9か所保険代	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	438	532	532	309		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
不法投棄ごみ回収回数		目標値	250	250	250	250	30
		実績	81	53	9	19	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	重点化する				
監視カメラの設置・運用による不法投棄の未然防止、パトロールによる不法投棄の早期発見・回収による抑制は、高い効果が認められるが、対応範囲に限度があり、特に山間部の道路沿いや河川等には、いぜん悪質な不法投棄が多い状況である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
監視カメラ監視カメラの運用により不法投棄の防止を図る。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
不法投棄が多発する市内10ヶ所に設置した監視カメラ等を運用し、不法投棄の抑止に努めた。また、年度末には、大島地区で校区連合自治会を中心に、不法投棄ごみ回収を実施した。今後、ごみパトロール体制の強化に加え、不法投棄多発箇所への監視カメラ新設要望をしていき、不法投棄の未然防止を図る。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04246_01	
事業名(行目名称)		清掃センター焼却灰等処理事業費	細事業名	清掃センター焼却灰等処理事業		
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現		
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	環境施設課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	清掃センター焼却灰(主灰)及び飛灰の民間最終処分場への搬出量		数値	主灰:802t 飛灰:160t 搬出量の20%	
	手段(どうやって)	適正で安定的な焼却灰の処理を行うため、飛灰のキレート処理を実施するとともに、非常時の処理ルートを確認するため、主灰・飛灰ともに一部を民間最終処分場へ処理委託する。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	清掃センター焼却施設から発生する焼却灰(主灰及び飛灰)を適正かつ安定的に処理することにより、安定的なごみ処理体制を確保し、継続する。				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		27,888	31,700	31,700	32,079	(消耗品費)
財源	県・国支出金	0	0	0	0	薬品(キレート剤)購入費 14,672千円
	地方債		0	0	0	(委託料)
	その他	0	0	0	0	焼却灰処理委託料 17,028千円
	一般財源	27,888	31,700	31,700	32,079	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
焼却灰の民間処分場への搬出率		目標値	60	20	15~20	15~20
		実績	25	18	20	18
令和4年度						0
						—
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
ほぼ計画どおり進捗しているが、市の最終処分場の点検整備、工事、荒天・災害時に備え、平時から民間処理ルート確保しておく必要がある。今後、薬品や処理単価の増額が見込まれる。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
飛灰処理施設整備事業の実施以降、主灰・飛灰ともに市の最終処分場での埋立処分が可能となったが、キレート処理を要し、予算の確保が必要である。また、市の最終処分場の点検整備、工事、荒天・災害時に備え、平時から民間処理ルート確保しておく必要があり、焼却灰発生量の20%程度を民間の最終処分場へ処分を委託しており、費用の確保が必要である。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
令和元年度の飛灰処理施設整備事業の実施により、主灰・飛灰ともに市の最終処分場での埋立処分が可能となり廃棄物の適正処理及び環境保全に努めた。また、一部を民間の処分場へ処理を委託することにより、市の最終処分場の延命化に寄与した。なお、工事や荒天の影響により市の最終処分場への搬入ができないなどの非常時や災害時に備え、今後も焼却灰発生量の15から20%を民間へ処理委託することにより、民間の処理ルートを確保しておく必要がある。						

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報		事後評価	2021	04248_01			
事業名(行目名称)		地域環境整備事業費	細事業名	地域環境整備事業補助金			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	環境施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	地域コミュニティ活動の推進(下東田自治会員)		数値			
	手段(どうやって)	下東田自治会館敷地の借地料を補助する。			191人		
	目的(どんな状態にしたいのか)	下東田自治会の両自治会館の地域コミュニティ活動の推進をする為。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)		令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		196	196	196	195		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	196	196	196	195		
下東田自治会館借地料 195,437円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
自治会館の利用回数		目標値	24	12	12	12	12
		実績	25	24	12	12	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
下東田自治会の自治会活動の拠点となる場所の借地料であるので、今後も継続していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
下東田自治会は、引き続き自治会活動を行っているため現状を維持していく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
自治会活動を今後も続けていくため、継続していく必要がある。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04258_01		
事業名(行目名称)		ごみステーション適正管理推進事業費	細事業名	ごみステーション適正管理推進事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立	担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	自治会	数値	300自治会			
	手段(どうやって)	一定のルールのもと、自治会未加入者のごみステーション利用を認める自治会に対し、交付金を支給する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域の環境美化の維持と、ごみ収集の基盤となっているごみステーションの適正な管理に係る負担を軽減するため、自治会に対する支援を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	20,000	20,000	15,919	20,000,000円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	20,000	20,000	15,919		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
申請自治会数		目標値	0	0	240	240	240
		実績	0	0	222	225	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>今年度開始した事業として80%の自治会からの申請を目標としている。          申請するかしないかは、各自治会の判断によるため、積極的な働きかけはできないが、交付金の効果・影響などを今後検証し、ごみステーションがより広く地域に開放されたものとなっていくよう取り組んでいく。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>交付金の効果・影響などを今後検証し、制度について検討を重ねていくため、次年度は今年度と同額の予算とし、経過をみていく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>目標より若干少ない、75%の自治会から申請であったが、自治会未加入者のごみステーション利用を認めていなかった自治会からも申請があり、自治会加入・未加入にかかわらず、地域のごみステーションを利用できる環境が広がったと判断している。          また、アンケート結果から、目的どおり、環境面を含め、交付金が自治会の経費負担軽減につながっていると評価できることから、結果の公表を通じ、申請自治会の増加に努める。</p>							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	04258_02		
事業名(行目名称)		ごみステーション適正管理推進事業費		細事業名	ごみステーション適正管理推進補助金			
総合 計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道		施策	循環型社会の実現			
	基本計画	適正かつ安定的なごみ処理体制の確立		担当課	廃棄物対策課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	自治会		数値	300自治会			
	手 段 (どうやって)	ごみ収集ボックスの設置及び監視カメラ設置に係る費用を補助する。						
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	ごみステーションの清潔の保持、適正な維持管理を促進し、地域の環境美化の向上を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		0	7,080	7,080	2,881	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ収集ボックス設置補助金 100,000円×60台=6,000,000円</li> <li>・ごみステーション監視カメラ設置補助金 30,000円×36個=1,080,000円</li> </ul>		
財 源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	7,080	7,080	2,881			
IV 指 標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
ステーションごみ回収件数			目標値	0	0	-	1000	1000
			実績	0	0	1100	1147	-
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
自治会からごみステーションの後出しなどによる不適正排出ごみの相談が多数寄せられている状況であり、今後についてもステーション管理者への支援は必要である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
ごみステーションの清潔の保持、適正な維持管理を促進するため、来年度についても事業を継続する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
ごみ収集ボックスを設置することにより周辺環境の清潔が保持され、監視カメラを設置することにより不適正排出の抑制につながった。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04049_03			
事業名(行目名称)		清掃センター施設整備事業	細事業名 清掃センター改修事業					
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策 循環型社会の実現					
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課 環境施設課					
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	ごみ搬出者及び施設直接搬入者(市民・事業者)		数値	118,521人			
	手段(どうやって)	リサイクル推進施設内にペットボトル選別圧縮機械設備及びペットボトル用ストックヤードを構築する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	老朽化しているペットボトル選別圧縮機械設備を更新することにより、ペットボトルの適正処理を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		0	190,689	190,689	179,968	ペットボトル選別圧縮機械設備工事 149,703,000円 ストックヤード建設工事 40,986,000円		
財源	県・国支出金	0	63,563	63,563	59,758			
	地方債	0	114,400	114,400	107,500			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	12,726	12,726	12,710			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
工事進捗率(%)			目標値	0	0	30	100	0
			実績	0	0	30	100	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
二つの工事について契約業務が終了し、目的達成に向けて引き続き工事を進めていく。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止					
事業終了								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
ペットボトル選別圧縮機械設備工事、ストックヤード建設工事が完了したため、事業を終了する。								



## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04057_01		
事業名(行目名称)		衛生センター施設整備事業	細事業名	衛生センター施設整備事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課	環境施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	し尿汲み取り世帯および浄化槽設置世帯の市民		数値	48,466人		
	手段(どうやって)	定期点検時におけるオーバーホールの実施。平成23年度に長寿命化計画を策定し、平成25年度から整備事業を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	施設の延命化を図り、し尿及び浄化槽汚泥の処理を安定させ、市民の快適な日常生活維持を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		34,100	10,505	10,505	9,515	衛生センター施設整備工事 10,505千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	34,100	10,505	10,505	9,515		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
点検設備機器箇所数		目標値	9	9	4	4	0
		実績	11	9	4	4	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
現在特に課題は無し							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
令和4年度中に施設が休止となるため							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
令和3年度末に搬入が終了し、処理業務が共同処理施設に移行するため							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04211_01	
事業名(行目名称)		菊本最終処分場施設整備事業	細事業名 菊本最終処分場施設整備事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策 循環型社会の実現			
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課 環境施設課			
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(ごみ排出者)	数値	117,389人		
	手段(どうやって)	設備(底開台船等)の定期点検整備等				
	目的(どんな状態にしたいのか)	処理施設を適切に維持管理することにより、市民(ごみの排出者)が安心してごみを出すことができる。				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		12,921	76,045	76,045	66,669	
財源	県・国支出金	0	24,200	24,200	21,180	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底開台船委託料 2,110千円</li> <li>・広域監視システム利用料 585千円</li> <li>・消耗品費 750千円</li> <li>・工事費 72,600千円</li> <li>計 76,045千円</li> </ul>
	地方債		44,200	44,200	38,300	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	12,921	7,645	7,645	7,189	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
ごみ受け入れ率(%)		目標値	100	100	100	100
		実績	100	100	100	100
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
処理施設を適切に維持管理する事により、市民(ごみの搬出者)が安心してごみを出す事ができるが、施設の老朽化が進んでいるので、更新も視野に入れる必要がある。令和3年度は、浸出水処理施設建設工事を行う予定						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止			
工事については、令和3年度で終了し、例年要求している底開台船委託料及び広域監視システム利用料については、菊本最終処分場管理費に移行する予定である。						
VI 事後評価						
成果		総合評価(令和3年度)		D:事業の統合・休廃止を検討		
工事は、令和3年度で終了し、例年要求している底開台船委託料及び広域監視システム利用料については、令和4年度から菊本最終処分場管理費に移行した。						

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04211_02		
事業名(行目名称)		菊本最終処分場施設整備事業	細事業名	菊本最終処分場長寿命化事業			
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現			
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課	環境施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(ごみ排出者)	数値	117,389人			
	手段(どうやって)	廃棄物埋立護岸の延命化対策工事を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	菊本最終処分場を延命化することにより、市民(ごみの排出者)が安心してごみを出すことができる。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		135,000	200,000	200,000	107,027	最終処分場延命化対策工事 200,000,000円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	135,000	200,000	200,000	107,000		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	27		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
工事進捗率(%)		目標値	0	50	80	100	0
		実績	0	66	100	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
工事完了							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
事業終了							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
最終処分場延命化対策工事が完了したため、事業を終了する。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04250_01			
事業名(行目名称)		廃棄物処理施設解体事業	細事業名	廃棄物処理施設解体事業				
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課	環境施設課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(ごみ排出者)		数値	117,389人			
	手段(どうやって)	愛媛県廃棄物処理センター東予事業所の解体撤去工事に関し、一般財団法人愛媛県廃棄物処理センターに工事の施行を委託する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	愛媛県廃棄物処理センター東予事業所の解体撤去及び一般財団法人愛媛県廃棄物処理センターの解散について、県及び関係市町と共同して事業を実施する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		61,439	212,343	212,343	94,802	愛媛県廃棄物処理センター東予事業所解体工事委託料 解体撤去費用 212,343,000円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	7,700	191,100	191,100	700			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	53,739	21,243	21,243	94,102			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
工事進捗率(%)			目標値	0	40	50	100	0
			実績	0	40	50	100	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
計画通りに進捗している。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止					
令和3年度で廃棄物処理センター東予事業所の解体工事事業が終了するため。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		D:事業の統合・休廃止を検討					
令和3年度で廃棄物処理センター東予事業所の解体工事事業が終了したため、事業を終了する。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04252_01			
事業名(行目名称)		汚水共同処理事業	細事業名	汚水共同処理事業				
総合計画	まちづくり	地球環境・生活環境・上下水道	施策	循環型社会の実現				
	基本計画	時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進	担当課	環境施設課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	し尿汲み取り世帯及び浄化槽設置世帯の市民		数値	48,466人			
	手段(どうやって)	下水処理場での、し尿及び浄化槽汚泥処理の必要経費を一般会計から上下水道会計へ負担する。一般廃棄物の搬入数量の把握のため、安全かつ適正な方法として、最終処分場トラックスケールを利用する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	下水処理場におけるし尿および浄化槽汚泥の処理を安定的に行い、市民の快適な日常生活を維持する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		0	2,886	2,886	2,805	最終処分場門扉改修工事 2,886,000円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		0	2,886	2,886	2,805			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
工事進捗率(%)			目標値	0	0	100	0	0
			実績	0	0	100	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
本年度の工事については、完了した。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
浄化槽汚泥等の処理に要する負担金を要求する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
最終処分場門扉改修工事を完了した。令和4年度以降は、浄化槽汚泥等の処理に関する負担金を支払う。								